会員だより
熊野参詣道　中辺路第３回

″牛馬童子像″は何故シンボル的存在に

月１回４時間も掛けて同じ道を往復するのは効率が悪いと感じながら、別に飽きたとは思わない。

却って日本の四季の変化に有難さを自慢したい。

３月にスタートした時は寒くて、木々の芽は硬く梅の花を愛でていたのに、５月18日、今や新芽も濃緑になってきた。

今回のハイライトは10年前世界遺産に登録された時からポスターにテレビに雑誌にあらゆる処に出てきた牛馬童子の像である。

バス停から最適のハイキング道を歩き始める。やっとこの像に逢う事が出来た。意外に小さいが、それが却って可愛らしさが増し人気を得たのか。中辺路を通って那智で３年修業された花山法皇が牛と馬に乗っている姿をイメージして明治の末頃作られた。

17歳で即位しながら、親族や藤原一族の陰謀によって２年足らずで退位させられ、出家したが、その後も自由奔放な貴族生活を続けたらしい。

熊野詣も退位してからお供を連れて行った。法皇一行がこの箸折峠で昼食をとった際、茅（かや）の枝を折って箸に使おうとしたら、赤い木汁がでたので、「これは血か露か？」とたずねられて、近露と言われるようになったとか、箸折峠という名が生まれたとか語り部が語る。

沢山の法皇・貴族が何度も（後白河上皇に至っては34回）熊野詣をしたのに、１回しか行かなかった花山法皇の伝説があちこちに残るのは日本人の判官贔屓だろうか。とにかく政治や市民の生活はどうなっていたのか察しが付かない。

記・写真：上村サト子

平成27年６月４日【関西南六会昼食会】

平成27年６月４日（快晴）私達６期生は昭和30年（１９５５）卒業で、今年で丸丸60年を経過しました。そこで昼食会を関西在住者のみならず、東京、松山の同期生にもよびかけて、都合２２名が京都、祇園の一角にある宮川町の老舗「喜久屋（駒井）」で開きました。創業８０年守り続けた揚げたて天麩羅など、旬の食材で季節の京料理と宮川町の芸妓さんとのたのしいひと時を、おしゃべりやお座敷舞で至福のひとときを過ごしました。昼食会のあとは、祇園・東山界隈の散策と御茶をして、来年は大阪で開催をきめて、元気に再会できるよう元気に頑張りますことを約束し散会しました。

記　成本忠晴

″祝「卒寿」の色紙を贈る″
牧戸富美子から礼状

ＶＧ槻輪の会の皆様、

本日、大岡会長様から皆様からの、私の卒寿のお祝いを頂戴いたしました。誠にありがとうございます。

思ってもいなかった、皆様からの温かいお心のこもった寄せ書きをうれしく、ありがたくいただきました。

省みますと９０年、私は大正１４年の生まれで、太平洋戦争をはさんで、戦前，戦中、戦後のめまぐるしい時代を過ごしました。幸い、大きな企業に勤めたおかげで、結婚はしませんでしたが、多くのよい友人にも恵まれ、生活の不安もなく、自分の好きなように生きて来ました。今は、卒寿を迎え、いかに人生を卒業するかに腐心しております。いたずらに馬齢を重ねてきただけですが、出来るだけ人様にご迷惑をかけないで、済ましたいものと考えています。だんだん、あちこち不具合が生じていますが、頑張って自分の出来ることで社会参加もしたいと思っています。本の好きな私にいただいた図書カードはなによりのプレゼントです。ありがとうございました。

最後に会長様はじめ会員の皆様方のご多幸とご健康を祈っております。

2015 年６月 18 日

牧戸富美子

2015 年 6 月 18 日京都国際交流会館で会員の前で「記念の色紙」を渡す予定が雨で中止。急遽、会長宅で色紙作成の方々の出席を得て贈呈されました。

水田に映る新緑の素盞嗚尊神社の森

神社の回りの水田の色が場所によって変わる。

神社の東側は、かつて奈良時代に嶋上郡衙（嶋上郡の郡役所）のあったところで、素盞嗚尊神社が創建されるこ前は、ここには郡の繁栄を願う郡寺（芥川廃寺）があったとされている。

郡寺は白鳳時代、７世紀に創建され、平安時代中頃まで続いたと考えられている。

素盞嗚尊神社の周辺は水田で、例年６月初旬の２～３日で水が張られ田植が行われ一変する。

水田に映る素盞嗚尊神社はこの時期にしか見られません。Ｓ・Ｏ

観音竹に花が咲きました。

２０年位前に友人から株分けして戴いた観音竹に初めてサンゴのような感じのやさしいピンク色の花が咲きビックリ！

ネットで調べると、中国南部原産で「竹」と言っても「イネ科」の竹でなく、「ヤシ科」に属する植物で２０～３０年に一度しか咲かない珍しい花だそうです。

花言葉は・・・・・日々平安。

６月８日　記・写真：明見容子